

生産(省資源・リサイクル)

ごみゼロを進化させるとともに、循環型社会の実現に向けてリーダーシップをとっています。

リコーグループは、資源の有効活用、生産の効率化、廃棄物処理費の削減、社員の意識改革を通じた企業体質の改善など、環境経営の一環としてごみゼロ、および水資源の有効利用を推進してきました。この活動は非生産系事業所でも展開されています。また、ごみゼロの豊富な実績をもとに、地域社会に貢献するなど、循環型社会づくりに向けて積極的な活動を展開しています。

非生産系拠点のごみゼロについては、56ページを参照。

ごみゼロの推進方法

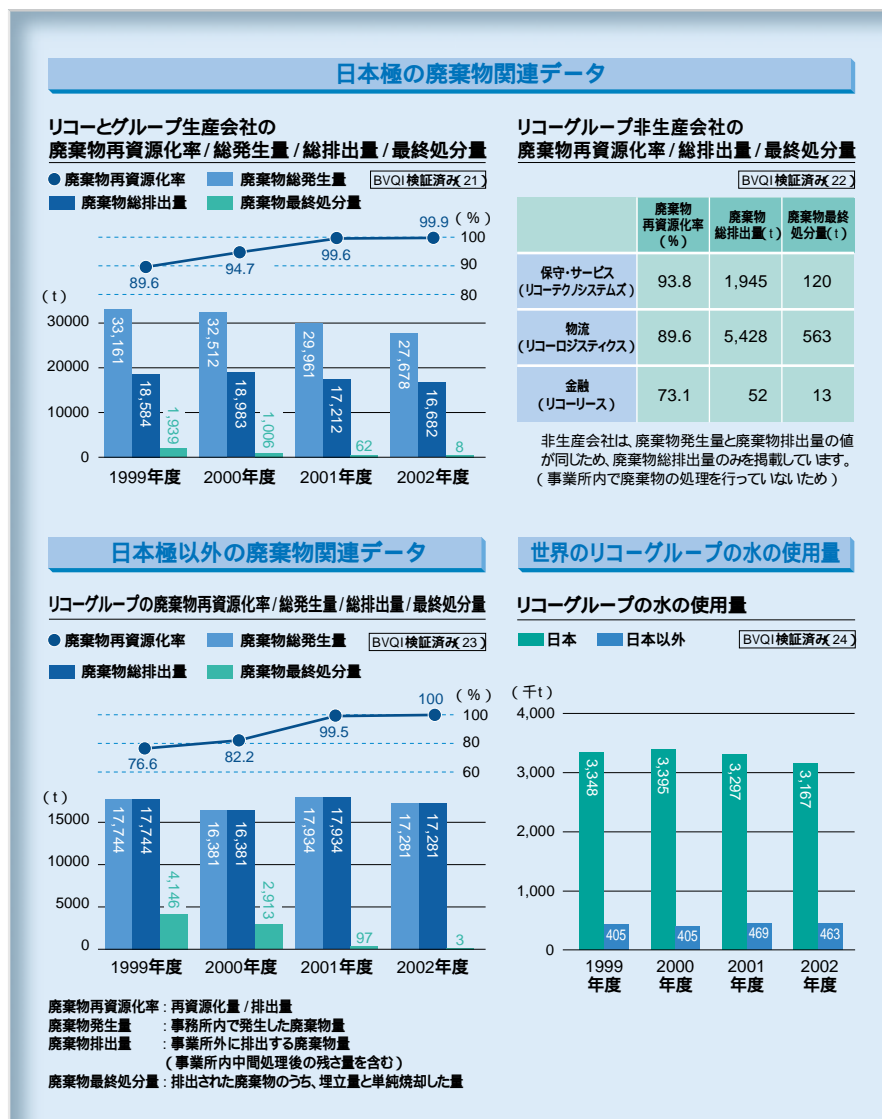
ごみゼロは、廃棄物をリサイクルするだけの活動ではありません。いくらごみゼロを実現しても、それが大量リサイクルの上に成立している場合は、環境負荷の効果的削減にはつながらないからです。リコーグループは、5R活動を通じて、まず廃棄物の発生抑制を主眼に、ごみゼロを推進しています。

リコーグループの5R

- 1 Refuse : ごみになるものを買わない
- 2 Return : 仕入先様に返せるものは返す
- 3 Reduce : ごみを減らす
- 4 Reuse : 再使用する
- 5 Recycle : リサイクルする

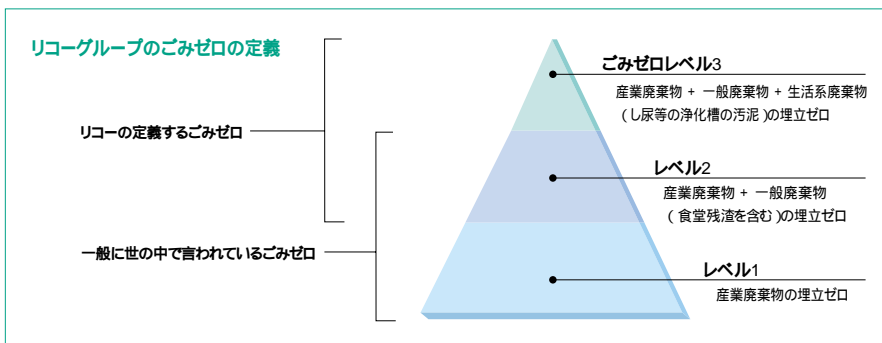
リコーグループのごみゼロ

リコーグループは、ごみゼロ(再資源化率100%・埋立ごみゼロ)を、3つのレベルに分類しています。一般にごみゼロと言えば、産業廃棄物をゼロにすること(レベル1)を意味しますが、リコーグ



ープのごみゼロは、産業廃棄物だけでなく一般廃棄物(レベル2)や、さらに進んで、し尿など浄化槽の汚泥といった生活系廃棄物もゼロにすること(レベル3)

を意味します。また、単純焼却処分は廃棄のための手段とみなし、熱エネルギー回収による再資源化を図るなど、資源の完全循環を目指して活動を行っています。



日本極

お帰りのさいリサイクル

リコーエレメックス岡崎事業所では、自社で排出された廃棄物を自社内で再利用する「お帰りのさい リサイクル」を実施しています。古紙を再生した緩衝材・バインダー・トイレットペーパー、食堂の廃油で作った「エコ石鹸」をはじめ、無害化しためっきスラッジを使用した無焼成の「エコレンガ」による敷地内の舗道作りも行っています。

携帯情報通信端末を利用した情報収集

リコー厚木事業所では、電力計・水道メーターなどのデータ集計や構内設備の異常の有無など、毎日3,000項目の情報収集とチェックを行っています。PDA(Personal Digital Assistant:携帯情報通信端末)を導入して、情報収集・チェックを効率化し、週500枚使用していた記録用紙のペーパーレス化を実現するとともに、コンピューターへの入力作業もゼロになりました。

射出成型機のホットランナー化

リコー厚木事業所では、350トン射出成型機のランナー(金型内での材料の位置決めをする道具)をホットランナーに変更することにより、廃プラスチック排出量と材料コストの削減を実現しました。従来のランナーは破碎してリサイクルしていましたが、材料の配合割合の関係で一部廃棄せざるを得ませんでした。新し

い方式ではランナー部分は溶解されたままで次の部品の材料になるので廃棄はゼロになり、2002年9月の稼働開始から3月までの7カ月間で、19.2トンのプラスチック材料の節約と2,100万円のコスト削減を達成しました。

トナーのリサイクル

リコーは2002年度、シンコーフレックス社様と共同で、トナーの生産工程から排出される廃トナーを製鋼用フラックスの材料に使う方法を開発しました(特許申請中)。この製鋼用フラックスは製鉄所に有価で売却することができるため、リコー沼津・福井の両事業所の廃トナー処理費用年間600万円が削減できました。また、日本国内のリサイクルセンター*でも、回収されたトナーカートリッジに残ったトナーを集めて、同様にリサイクルする実験を進めています。

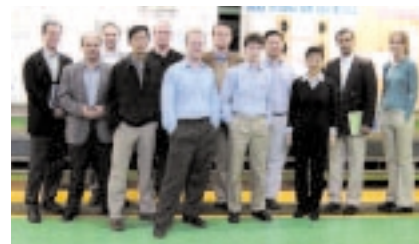
* 60ページを参照。

米州極

アメリカ/ごみゼロ化への地域啓発

2000年度にごみゼロを達成したアメリカの生産会社リコーエレクトロニクス(REI)のカリフォルニア工場は、地域社会のごみゼロ化に向けた啓発活動を継続的に行っています。2002年4月には、地域の環境ビジネス支援センターと共同で「ごみゼロセミナー」を開催し、20以上の企業や市民団体、地方議会の代表者、そしてカリフォルニアごみ管理局委員会に対して、

REIのごみゼロ活動を説明しました。また、カリフォルニア大学アーバイン経営大学院のMBA研修生や同大学ロサンゼルス校(UCLA)の学生の見学を受け入れました。



ごみゼロ/改善セミナーに参加したUCLAの学生

中国極

深圳(シンゼン)/ごみゼロの進展

2001年度にごみゼロを達成した深圳のリコーアジアインダストリー(RAI)は、2002年度、17社・117名の「ごみゼロ工場」見学者を受け入れ、積極的な啓発を行いました。2002年11月には、1,600人以上の社員が、工場内だけでなく周辺地域まで収集範囲を広げた大規模なごみ拾い活動を行い、社員の環境意識がさらに高まりました。また、ボランティア社員による深圳市のクリーンアップ活動も実施しました。これらの活動や省エネ活動*が高く評価され、RAIは「第1回 深圳市グリーン企業」の認定を受けています。

* 48ページを参照。



1,600人以上の社員が参加した大規模なごみ拾い活動



深圳市のクリーンアップ活動

射出成型機のホットランナー化のコスト対効果実績(セグメント環境会計)

コスト			効果			
			経済効果		環境保全効果	
コスト項目	主なコスト	金額	削減項目	削減金額	削減項目	削減量
事業エリア内コスト	設計制作費	2.56百万円	廃棄物処理費削減	1.86百万円	廃棄物排出量	19.2(t)
			材料費削減など	21.77百万円		

効果に関しては2002年9月からの7カ月の積み上げで金額を算出。